

中澤省一郎のSS経営メールマガジン No.137

TOCOM 石油製品に関する新規上場2件

■ 日経新聞が11月8日に「新設計の石油製品市場上場」と出てましたので、調べて、9日の中澤塾で議論しました。TOCOMが7日に配布した資料は未入手ですが、現時点でわかったことだけでも、凄い変化が起きそうです。

A：「現金決済型」石油商品の新規上場：来年5月か？

B：TOCOMによるOTC市場の新規開設：新TOCOMwindow

■ A：「現金決済型」石油商品の新規上場

8月のSS経営セミナーでTOCOMからの話では、「ゼロ番切り」が追加になるということでしたが、今までのガソリン・灯油・軽油の先物市場はそのまま、新たに連続7限月の新規商品になるそうです。「ビックリ！」です。

●商品：ガソリン・灯油・軽油 ●対象：海上（50KL）と陸上（10KL）

特色1：「現金決済型」＝「現物の引取りが出来ない」⇒ TOCOMの原油と同じように、売買残高は月末に現金決済のみ可。

特色2：「決済するための価格報告期間の価格指標が必要」：月中平均で決済です。

特色3：現物の引き取り不可⇒「元売の顔色を見なくて取引できる」（ヘッジ取引に非常に活用できます）：特に軽油は「軽油税無関係」なので、活性化が期待できます。

●現状：先物をやる＝元売りから「業転を混せている」と疑われる。

●現金決済型：そもそも現物が入手できないので、混ぜる危険性ゼロ：大手を振って「ヘッジ」できます。

■ ヘッジって何？

例えば、 ●ガソリンの現時点での仕入価格：100円 ●ある取引先から今月は：104円で100KLと合意
 ●4円はギリギリの粗利 ●月中で値上がったら赤字なので、契約には躊躇
 ●ここで、100円で10枚（100KL）分買いを立てる
 ●仮に平均103円になったら、月末でTOCOM+3円、実際の取引で1円。合計4円の粗利を確保
 ●こうすることにより、ギリギリの粗利4円でも契約が可能になる

問題はどの価格指標を採用するか？現状の候補はRIM、Platts、OPIS、（Argus）

■ B：TOCOMによるOTC市場の新規開設：新TOCOMwindow

OTC市場とは「現物取引市場」のことです。現在の予定は海上物（100KL） JOXの問題点を解消することが目的？

将来的には ●同じシステムで陸上物を可能

●新TOCOMWindowで価格指標が算定可能（公設市場です）

問題点は ●既にJOX、Platts（ewindow）、TTと現物市場が存在：その上、新TOCOMWindowで取引高は確保可能か？

仮に十分な取引高が確保できれば、海陸とも「現金決済型」の市場の決済の指標にも使え、TOCOM一人勝ちも可能。

価格指標等に関する 今後のスケジュール

■ 現金決済型の新市場に、どの価格指標が採用されるかが、4月以降に採用される「透明性のある」価格指標になると考えれ、「勝負あり」になるかも知れません。各指標（陸上物）を比較してみましょう。

	データの収集	匿名性	PRA
RIM	ヒアリング	非公開	取得済
Platts	EWindow	実名	取得済
OPIS	TT	匿名	×
Argus	不明	不明	不明

●中澤の予想：Platts100、又は、Platts50+RIM50

■ 今後のスケジュール

11月下旬：Platts 取引可能な各社に対してヒアリング ⇒ Platts陸上物の仕様を確定

12月12日：Platts 陸上物の価格指標の公表開始（油種はガソリン、灯油、軽油、HSLとLSLのA重油の5油種。50KL単位）

3月まで：TOCOMが決済に使用する価格指標を決定か？

エネ庁：石油取引に関するガイドラインを公表

4月1日：JXとTGの合併

4月以降：元売りは「透明性のある」価格指標の採用（←事後調整をしなくていいように）

■ これからの変化はSS経営に直結しますが、元売は「変わらない」と言い続けると思います。

正確な情報収集に留意して下さい。どの情報を信じるかが、SS経営を決するかも知れません。

情報には、耳を「ダンボ」にしてください。そして、適切な「猜疑心」を持ってください。